

摂食・嚥下障害が疑われるときには、まず服用薬剤の点検を！
J.A. Logemannも絶賛！ 摂食・嚥下領域初の成書の日本語版

薬と摂食・嚥下障害 作用機序と臨床応用ガイド

Linette L. Carl・Peter R. Johnson／著
金子芳洋・土肥敏博／訳

■A5判・300頁・2色刷 ■定価6,090円（本体5,800円＋税5%） ISBN978-4-263-44248-7

2006年米国の臨床薬剤師と言語療法士によってまとめられた、薬と摂食・嚥下障害の関係をまとめた初の書。本領域に携わる医療関係者に必携の書！

- 摂食・嚥下障害に関わる薬剤情報に、すばやく確実にアクセスできる！
副作用の程度や作用機序が一目でわかる表がたいへん便利です。
- 単剤投与・多剤投与と患者における、薬物の作用機序、有害作用（副作用）、嚥下障害との関係についてわかりやすく解説。薬物とその副作用に関わる神経伝達物質、受容体、薬物代謝酵素などの関係が理解できる！
- 忘れてはならない食欲・味覚（嗅覚）・胃腸系に対する薬物副作用の重要性についても詳説！各疾患や症状に対する副作用は、章ごとにまとめました。
- 障害者、高齢者が服用する率の高い薬物が、いかに食べる機能に影響を与えることが多いかが理解できます。

主な目次 C O N T E N T S

第1部 基礎的事項

- 1章 神経薬理学概論
- 2章 摂食・嚥下のプロセスと摂食・嚥下障害
- 3章 摂食・嚥下障害に対する薬物の作用

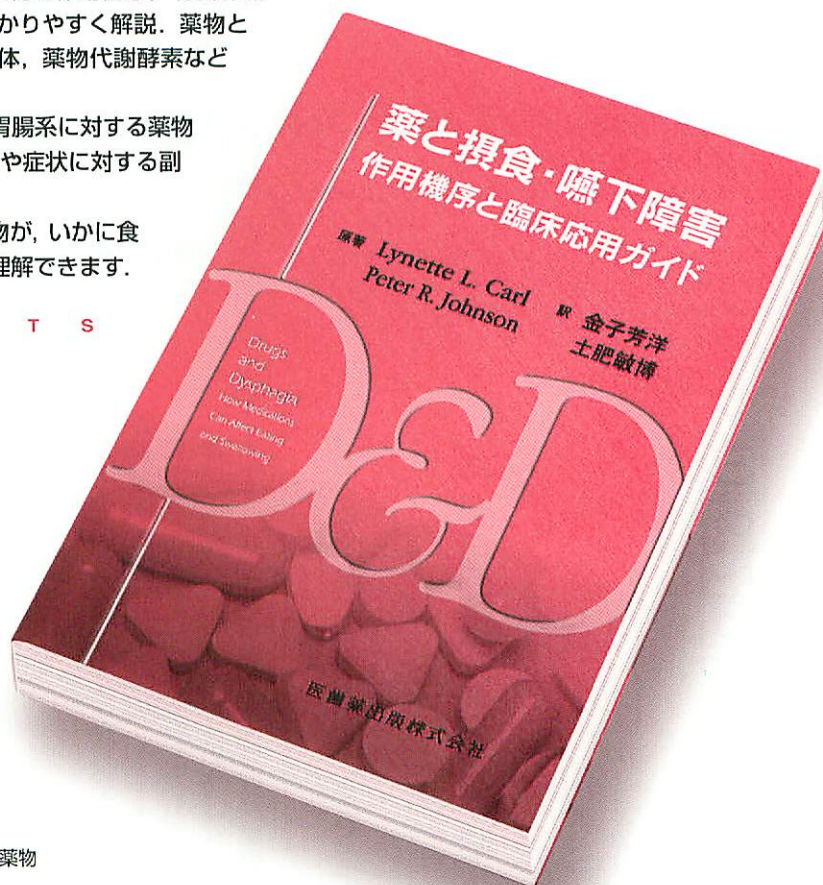
第2部 中枢神経系に悪影響を及ぼす薬物

- 4章 精神病治療に用いられる薬物
- 5章 うつ病の治療に用いられる薬物
- 6章 不安と不眠〔症〕に用いられる薬物
- 7章 痙攣の治療に用いられる薬物
- 8章 疼痛治療に用いられる薬物
- 9章 双極性障害の治療に用いられる薬物
- 10章 パーキンソン病の治療に用いられる薬物
- 11章 アルツハイマー病の治療に用いられる薬物

第3部 胃腸系に悪影響を及ぼす薬物

- 12章 食欲、味覚、嗅覚に悪影響を及ぼす薬物
- 13章 薬物誘発性の口腔乾燥症と口内炎
- 14章 急性・慢性の胃腸管傷害の起因となる薬物
- 15章 胃自動運動性機能不全の治療に用いられる薬物

- 用語集
- 薬物索引
- 項目索引



医歯薬出版株式会社

〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10 TEL.03-5395-7630 FAX.03-5395-7633 <http://www.ishiyaku.co.jp/>